

# 平成31年度から令和3年度までの実施施策に係る政策評価書

(防衛省31～3-⑭)

施策名	知的基盤の強化					
施策の概要	安全保障・危機管理に対する国民の理解を促進するため、教育機関等における安全保障教育の推進に取り組む。また、防衛省・自衛隊において、防衛研究所による研究と政策支援を高い水準で両立させるため、政策部門との間の連携を促進するとともに、防衛研究所を中心とする研究体制を一層強化する。その際、政府内の他の研究教育機関や国内外における優れた大学、シンクタンク等との教育・研究に係る組織的な連携を推進する。					
達成すべき目標	①安全保障・危機管理に対する国民の理解の促進 ②防衛研究所を中心とする研究体制の強化					
施策の予算額・執行額等	区分	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	
	予算の状況 (百万円)	当初予算(a)	794 <0>	833 <0>	864 <0>	867 <0>
		補正予算(b)		0 <0>	0 <0>	
		繰越し等(c)		0 <0>	0 <0>	
		合計(a+b+c)		833 <0>	864 <0>	
	執行額(百万円)		771 <0>	728 <0>		

※ 下段( )外書きは、複数の政策にまたがる予算及び複数の政策にまたがると整理できる予算であり、総額の「内数」で掲記している。  
※ 令和2年度に現政策体系に応じた予算の組み替えを実施済であるため、平成31年度については予算額のみ記載している。

施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	中期防衛力整備計画(平成31年度～平成35年度) Ⅲ-6-(4)知的基盤
-----------------------------------	---

測定指標	1. 国民の安全保障教育の推進		
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成
	【平成31年度から令和3年度までの主な実績】 ●防衛省の各機関が実施する防衛セミナー等へ講師を派遣した。 ●防衛研究所の研究者が大学において非常勤講師として講義を実施した。 ●学会、団体等が実施する研究会等において講師を派遣した。	教育機関等への講師派遣	③
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成
【平成31年度から令和3年度までの主な実績】 防衛研究所主催により、一般公開の国際会議を実施した。 ●平成31年度実績: ・安全保障国際シンポジウム:「一帯一路構想と国際秩序の行方」 ・戦争史研究国際フォーラム:「紛争の想定外の拡大」 ・ASEANワークショップ:「米中対立とASEAN」 ●令和2年度実績(新型コロナウイルス感染拡大防止のため関係者に限定しオンライン形式で実施) ・安全保障国際コロキウム:「東アジアの核・ミサイル問題と日本の対応」 ・戦争史研究国際フォーラム:「近代東アジアの安全保障環境」 ・ASEANワークショップ:「変化する国際環境とASEAN諸国の対応」 ●令和3年度実績 ・戦争史研究国際フォーラム:「歴史としての湾岸戦争」 ・ASEANワークショップ:「ASEANの将来像」 ・安全保障国際シンポジウム:「技術革新と安全保障-東アジアの戦略環境に及ぼす影響-」	公開シンポジウムの開催	③	

		施策の進捗状況(実績)	目標	達成
測定指標		<p>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</p> <p>●防衛研究所研究者による論文を刊行物等を通じ発信するとともに、防衛研究所HPへ掲載した。</p> <p>平成31年度実績:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「東アジア戦略概観2019」(日・英語): 東アジア地域の戦略情勢等に関して執筆</li> <li>「中国安全保障レポート2020」(日・英・中国語): 中国の安全保障課題を中長期的視点から分析</li> <li>「防衛研究所紀要」: 主に現代の安全保障課題についての論文集</li> <li>「戦史研究年報」: 戦争史に関する論文集</li> <li>「フリーフィンク・メモ」(日・英語): そのときどきの安全保障課題について分析</li> <li>「NIDSコメンタリー」(日・英語): 安全保障情勢等に関する解説を執筆</li> </ul> <p>令和2年度実績:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「東アジア戦略概観2020」(日・英語)、「東アジア戦略概観2021」(日): 東アジア地域の戦略情勢等に関して執筆</li> <li>「中国安全保障レポート2021」(日・英・中国語): 中国の安全保障課題を中長期的視点から分析</li> <li>「安全保障戦略研究」: 日本の安全保障に関する学術研究の発展及び国民への知識の普及に寄与することを目的とした学術雑誌を刊行。部外からも原稿を募集</li> <li>「戦史研究年報」: 戦争史に関する論文集</li> <li>「湾岸戦争史」: 湾岸戦争に関する調査研究</li> <li>「フリーフィンク・メモ」(日・英語): そのときどきの安全保障課題について分析</li> <li>「NIDSコメンタリー」(日・英語): 安全保障情勢等に関する解説を執筆</li> </ul> <p>令和3年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「東アジア戦略概観2021」(日・英語): 東アジア地域の戦略情勢等に関して執筆</li> <li>「中国安全保障レポート2022」(日・英・中国語): 中国の安全保障課題を中長期的視点から分析</li> <li>「安全保障戦略研究」: 日本の安全保障に関する学術研究の発展及び国民への知識の普及に寄与することを目的とした学術雑誌を刊行。部外からも原稿を募集</li> <li>「戦史研究年報」: 戦争史に関する論文集</li> <li>「フリーフィンク・メモ」(日・英語): そのときどきの安全保障課題について分析</li> <li>「NIDSコメンタリー」(日・英語): 安全保障情勢等に関する解説を執筆</li> </ul> <p>●防衛研究所専用のツイッターアカウントを開設(令和2年1月)し、タイムリーな情報発信を実施した。</p> <p>平成31年度実績: ツイッターアカウントの開設</p> <p>令和2年度実績: 防衛研究所専用のツイッターアカウントにて、HP更新情報の発信を実施</p> <p>令和3年度実績: Youtubeチャンネルの開設、防衛研究所の紹介動画他4件をアップ 防衛研究所のホームページに座談会の動画をアップ 防衛研究所専用のツイッターアカウントにて、HP更新情報等の発信を実施</p>	情報発信の強化	③
	2. 防衛研究所を中心とする防衛省・自衛隊の研究体制の強化			
		<p>施策の進捗状況(実績)</p> <p>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</p> <p>●米、中、韓、露、蒙、東南アジア諸国、印、パキスタン、欧州諸国、カナダ、中東等の研究機関との2国間あるいは多国間での教育・研究交流を継続して実施した。</p> <p>●大学との共催により一般公開の安全保障フォーラムを開催した。</p> <p>平成31年度実績:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際安全保障フォーラム・イン・関西 2019-20(大阪大学大学院)</li> <li>国際安全保障フォーラム・イン・東京 2020(政策研究大学院大学)</li> </ul> <p>令和2年度実績:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代中国研究センター研究会(慶應義塾大学)</li> </ul> <p>令和3年度実績:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際安全保障フォーラム・イン・東京2022(オンライン方式)</li> </ul> <p>●平成31年度、防衛大学校と防衛医科大学校との研究交流覚書を締結し防衛医科大学校との研究会を4回実施した。</p>	国内外の研究教育機関や大学、シンクタンク等とのネットワーク及び組織的な連携の拡充	③
		<p>施策の進捗状況(実績)</p> <p>【平成31年度から令和3年度までの主な実績】</p> <p>●本省等から要望された調査研究(特別研究)を実施した。</p> <p>●本省等の事業等に対して研究者として協力する枠組みである政策支援プロジェクトを実施した。</p> <p>●本省等の職員を対象としたブラウン・バッグセミナーを開催した。</p> <p>●本省等職員を対象とした研究成果発表会を開催した。</p> <p>●内部部局等政策担当者との意見交換を実施した。</p> <p>●政務・省幹部に対するフリーフィンクを実施した。</p>	研究成果等の提供等による政策立案への寄与	③

目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分)	③相当程度進展あり
	(判断根拠)	<p>&lt;測定指標1&gt;</p> <p>●教育機関等への講師派遣として、防衛省の各機関が実施する防衛セミナー等に講師を派遣。防衛研究所の研究者が大学において非常勤講師として講義を実施する等、目標に向かって着実に進展している。</p> <p>&lt;測定指標2&gt;</p> <p>●国内外の研究教育機関や大学、シンクタンク等とのネットワーク及び組織的な連携の拡充として、米、中、韓、露、蒙、東南アジア諸国、印、パキスタン、欧州諸国、カナダ、中東等の研究機関との二国間あるいは多国間での教育・研究交流を実施する等、目標に向かって着実に進展している。</p> <p>以上のことから、相当程度進展ありと判断した。</p>

評価結果	施策の分析	<p>&lt;測定指標1&gt;</p> <p>●各目標に対して、以下の取組により施策の推進に寄与 ※()書きは目標 (教育機関等への講師派遣)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防衛省の各機関が実施する防衛セミナー等への講師の派遣。大学への非常勤講師としての講義の実施</li> <li>(公開シンポジウムの開催)</li> <li>・防衛研究所主催による戦争史国際フォーラム等の国際会議の開催</li> <li>(情報発信の強化)</li> <li>・防衛研究所における東アジア戦略概観、中国安全保障レポート等の発刊。</li> <li>・防衛研究所専用のツイッターアカウントやYoutubeチャンネルの開設、情報発信の実施</li> </ul> <p>&lt;測定指標2&gt; 防衛研究所を中心とする防衛省・自衛隊の研究体制の強化</p> <p>●各目標に対して、以下の取組により施策の推進に寄与 ※()書きは目標 (国内外の研究教育機関や大学、シンクタンク等とのネットワーク及び組織的な連携の拡充)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米、中、韓、露、豪、東南アジア諸国、印、パキスタン、欧州諸国、カナダ、中東等の研究機関との二国間あるいは多国間での教育・研究交流の実施</li> <li>(研究成果等の提供等による政策立案への寄与)</li> <li>・本省等職員を対象とした研究成果発表会等の開催</li> </ul>
	次期目標等への反映の方向性	<p>①安全保障・危機管理に対する国民の理解の促進 防衛研究所主催で国際会議の実施、東アジア戦略概観などの刊行、防衛研究所専用のツイッターアカウントで情報の発信等、引き続き、安全保障・危機管理に対する国民の理解の促進に取り組んでいく。</p> <p>②防衛研究所を中心とする研究体制の強化 米国等との二国間や多国間での教育・研究交流の継続、国際安全保障フォーラムの開催、また、本省等の職員を対象とした研究成果発表会等、引き続き、防衛研究所を中心とする研究体制の強化に取り組んでいく。</p>

学識経験を有する者の知見の活用	施策は順調に進展しており、特に意見なし。
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防衛省ホームページ</li> <li>○ 防衛白書(令和元年～3年)</li> <li>○ 我が国の防衛と予算(平成31年～令和3年)</li> </ul>

担当部局名	防衛政策局及び人事教育局	政策評価実施時期	令和4年6月
-------	--------------	----------	--------

※ 「測定指標の達成欄」及び「評価結果」の「(各行政機関共通区分)欄」については、達成状況を以下の5段階区分の数字を記入。  
①目標超過達成、②目標達成、③相当程度進展あり、④進展が大きくない、⑤目標に向かっていない